

広告

アレルギーケア 最新NEWS

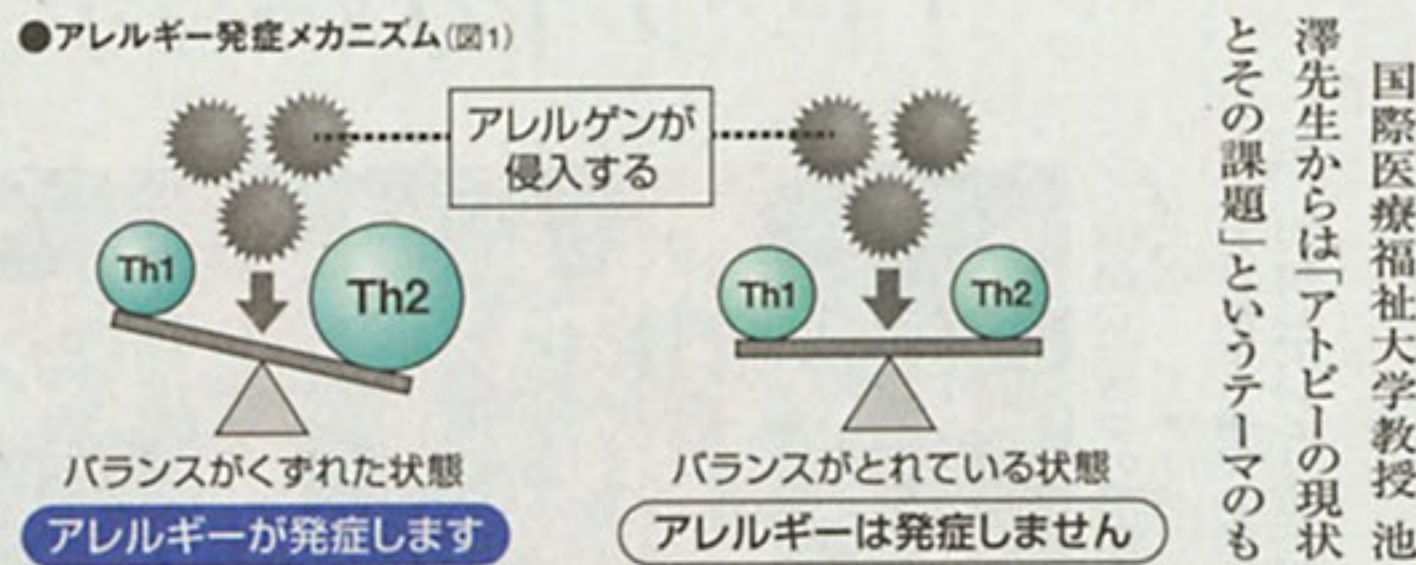
アトピー性皮膚炎の専門家6人による最新レポート！
アトピー性皮膚炎 通年性鼻炎 花粉症
注目のアレルギー対策 「L-92乳酸菌」

アレルギーケアフォーラムが
小児・成人アトピー性皮膚炎の
最新の研究成果を発表

現在国内では、全人口の約2人に1人がアトピー性皮膚炎をはじめとしたアレルギー疾患にかかっているといわれている。このような背景のもと「環境・生活習慣型アレルギーケアフォーラム」代表・鳥居新平名古屋大学名誉教授、社「アレルギー」でもリク院長）は、最新の研究や臨床における情報発信活動の一環として、2013年6月13日に「L-92乳酸菌」によるアトピー改善の可能性があることを報告している「L-92乳酸菌」が、今回は最新の研究発表による小児成人アトピー性皮膚炎の対策との成果をレポートする。

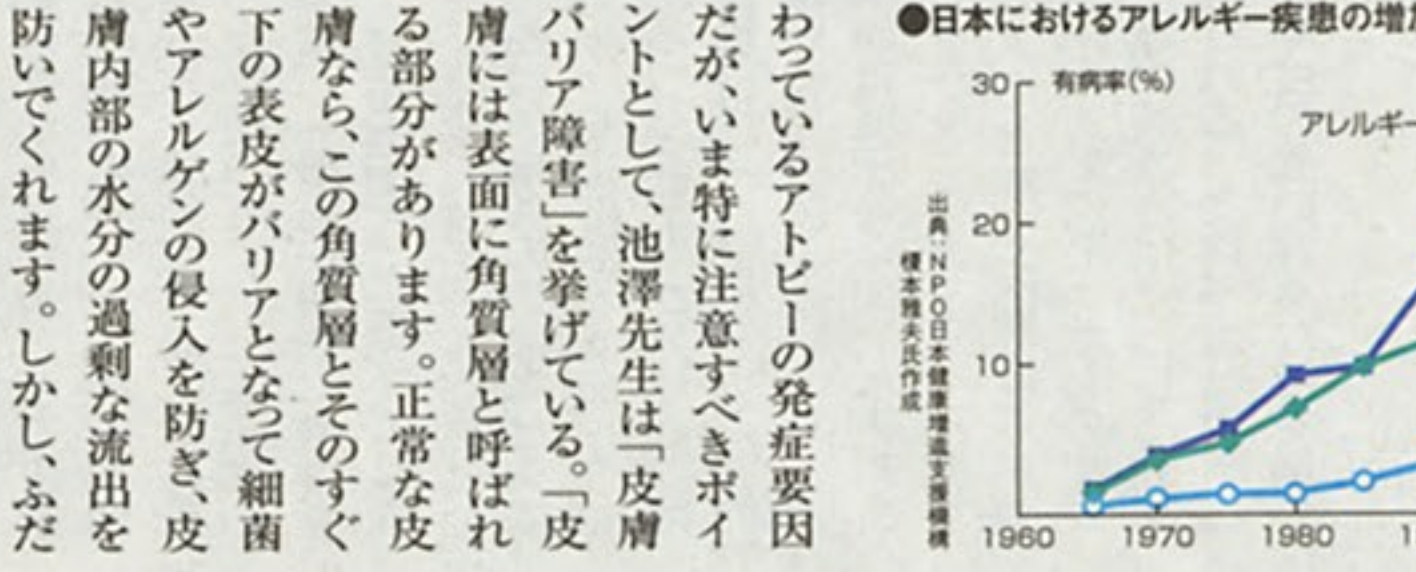


医学博士 池澤善郎先生



増える 成人アトピー性皮膚炎と 今後の対策の在り方
国際医療福祉大学教授 池澤先生からはアトピーの現状とその課題についてテーマをもち、発表が行われた。カラダの免疫系が過剰反応し発症するアレルギーだが、ヒトの免疫システムには、司令塔の役割をするTh1(感染予防因子)とTh2(アレルギー因子)という2つの細胞がある。それはお互いにバランスを取りながら免疫をコントロールしているが、バランスがくずれれば、アレルギーを引き起こす物質であるアレルギーが体内に侵入すると、Th2系の過剰な反応が起きてしまう(図1)。

環境や生活習慣が深く関係も増えているのだそう。例も増えているのだそう。環境や生活習慣が深く関係も増えているのだそう。例も増えているのだそう。環境や生活習慣が深く関係も増えているのだそう。

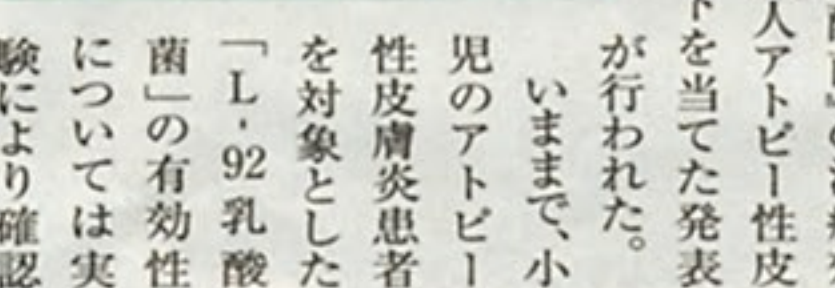


わが国におけるアトピーの発症要因が、いま特に注意すべきポイントとして、池澤先生は「皮膚バリア障害」を挙げている。「皮膚には表面に角質層と呼ばれる部分があります。正常な皮膚なら、この角質層のすぐ下の表皮がバリアとなつて細菌やアレルギーの侵入を防ぎ、皮膚内部の水分の過剰な流出を防いでくれます。しかし、ふだんの生活の中でこの皮膚のバリア機能が傷つけられると、そこからアレルギーが入り込んでアレルギーを発症しやすくなります。強い界面活性剤の入った日用品や化学繊維の衣類は避け、昔風の石けんを使うとか、綿やシルクなどの自然素材のものを着る、なおすすめしすめ」とのこと。

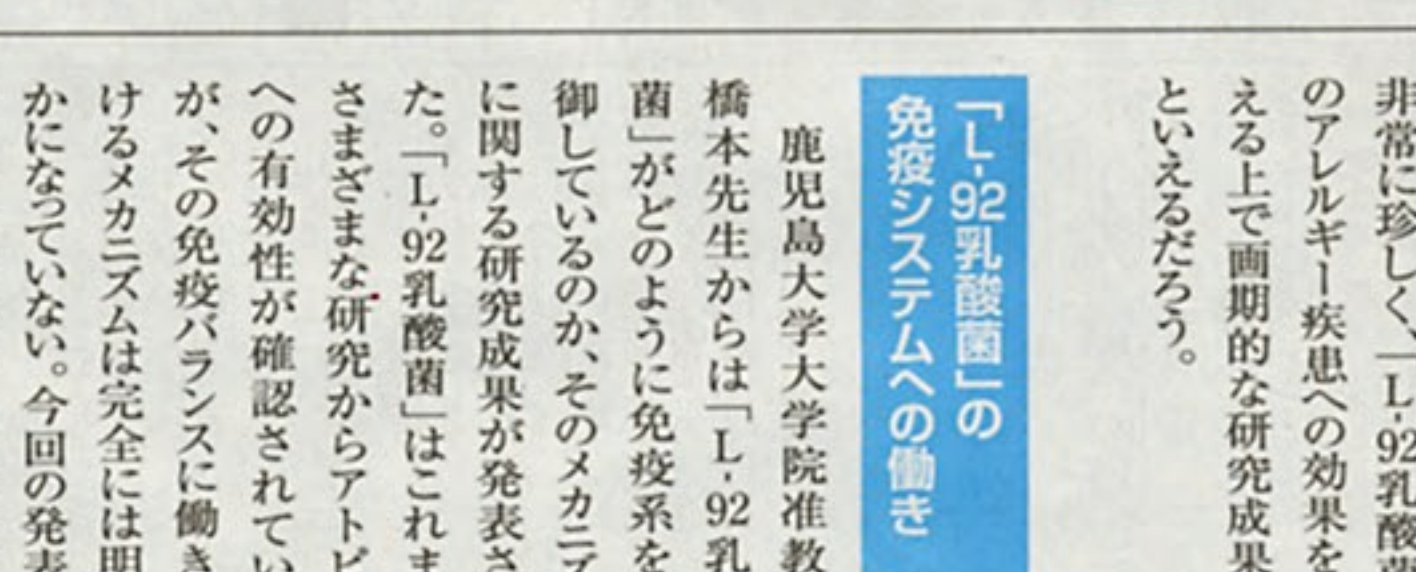


医学博士 鳥居新平先生

軟膏や抗炎症外用薬を塗ることで抑えていました。しかし、今後は、単純に外用からのケアだけではなく、生体が持つ免疫調節機能をうまく生かして、Th1とTh2のバランスを保たせることが大切です。これが今後の新しいアトピー対策になるのではないかと考えています。この見解を示してくれました。



医学博士 相原道子先生



さらに、アトピー性皮膚炎に対する「L-92乳酸菌」の有効性についての実験結果も発表され、長期継続して「L-92乳酸菌」を摂取することで、アトピー性皮膚炎が軽減する可能性が明確に示された。「L-92乳酸菌」の効果を得るには、継続的な摂取がポイントだといえそう。

「L-92乳酸菌」の慢性化と「L-92乳酸菌」の効果
池澤先生の発表では「アトピーの慢性化」についてその研究成果が解説された。アトピーの慢性化については複数の因子がかかるといわれており、皮膚炎が増幅され、炎症状態が持続すると考えられている。稲垣先生によれば、「この炎症増幅のループを断ち切ることで、症状を軽減することができる」とのこと。

小児アトピー性皮膚炎に「L-92乳酸菌」の効果が期待されている
横濱市立大学大学院医学研究科教授 相原先生からは「成人アトピー性皮膚炎の特徴と「L-92乳酸菌」の治療効果」として、成人アトピー性皮膚炎にスポットを当てた発表が行われた。

「L-92乳酸菌」の免疫システムへの働き
鹿兒島大学大学院准教授 橋本先生からは「L-92乳酸菌」がどのように免疫系を制御しているのか、そのメカニズムに関する研究成果が発表された。「L-92乳酸菌」はこれまでさまざまな研究からアトピーへの有効性が確認されているが、その免疫メカニズムは明らかになっていない。今回の発表では、より詳細な「L-92乳酸菌」の作用について説明が進んでいることが述べられた。免疫システムを制御する仕組みにおいて、「L-92乳酸菌」には含まれる「リポタン」成分が重要な役割を

「L-92乳酸菌」による皮膚症状の変化(図3)
「L-92乳酸菌」の有効例の比率(図4)

アレルギー支援ネットワークの現状と発展への展望
認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク事務理事を務める中西氏からは「アレルギー支援ネットワークの現状についてお話しいただいた。中西氏によれば「全国的に見ればアレルギー患者の支援体制はまだ十分とは言えません。患者や患者家族へのサポートも同様です。患者家族の声からも「アトピー対策のためには、まず何をすればいいのかわからない」といった声が多く聞かれます。切迫した現状が見られます。これから先生方のアレルギー研究と併せて、私たちの活動でも、患者さんの治療に

アレルギーの新しい予防法や対策を発信するアレルギーケアフォーラム
正式名称は「環境・生活習慣型アレルギーケアフォーラム」。全国のアレルギー研究やアレルギー治療で名高い専門家が発起人となり、2007年11月に設立された第三者機関である。アレルギーを全身の病気を環境・生活習慣と捉えて、世の中に役立つ情報を発信している。

「L-92乳酸菌」によって知らされたアトピー対策のこれから
鳥居先生、池澤先生お二人による総括からは、アトピー対策の今後の展望について大きな手応えと期待が感じられた。各先生の発表を受けて鳥居先生は「これだけいろいろな角度からアトピー性皮膚炎の効果が明らかになってきていることは大きな進歩だと言えます。特に成人アトピーの有効性は非常に高いデータが出ており、年齢を問わず「L-92乳酸菌」の有効性が解明されていくことは、とても意義のある研究成果だといえるでしょう。他にも、通年性鼻炎や花粉症の効果もすでに報告されています。臨床医の立場からも「L-92乳酸菌」の働きには非常に期待しています」と総評を述べられた。

「L-92乳酸菌」を含む市販食品も
乳酸菌にはさまざまな種類が存在するが、「L-92乳酸菌」はそうした食品からは摂れない特別な菌だった。しかし、最近では「L-92乳酸菌」を含んだものもつくられており、注目の的らしい。カラダの中から免疫バランに働きかける「L-92乳酸菌」は、予想通りアレルギーケアの期待の星といえそう。



抗アレルギー作用の解明が進む「L-92乳酸菌」ラクトバチルス・アシドフィルスL-92株の電子顕微鏡写真